

## 第3回議会改革諮問会議記録（要点）

日 時 令和7年4月16日（水）19時00分～20時30分

場 所 役場3階委員会室

### 1 出席者

出席委員：明瀬禎純会長、桑田朝代職務代理者、飯島裕治委員、西村有里委員、  
武藤雅紘委員

欠席委員：なし

出席議員：梶澤幸治議長、鈴木健充副議長、渡辺議運委員長、立川同副委員長、  
（事務局）竹川総務係長、大石総務係主査

### 2 意見交換 内容は別紙のとおり

### 3 その他 次回委員会開催日程について 令和7年7月（予定）

## <意見交換内容>

質疑：諮問会議の客観的な正当性とは何なのか？

応答：中尾サポーターから提案があったもので、委員の選任や諮問事項について、客観的な正当性を担保するには、議決事項として公にした方が良いとの意見。議会としては、必ずしも議決までは必要ないと考えている。

質疑：今後の芽室町の人口推移は？定数は委員会1つあたり7～8人必要なら今の定数が妥当。前回の定数を減らしたときの経緯・理由は？

応答：将来的に芽室町の人口は、13,000人程度になる。かつて議員数は人口1,000人あたり1人が1つの目安であった。

質疑：多様であるためにある程度人数が必要。20代・30代の人の声を聞く場があれば良い。

質疑：仕事量はどの程度なのか？兼業が可能な業務なのか？社会の変動に合わせて議員報酬も変動するものなのか？今回見直して、次回はいつ見直すのか？

応答：議会は成り手不足の解消に向けて、報酬の引き上げだけでなく、主権者教育の推進を重視している。高校生を対象にした取組を行っているが、中学生にも出前講座を実施し、町内の関心を高めたいと考えている。また、ハラスメント条例の設置を検討し、女性議員の活躍を促進するための研究も進めている。

応答：議会における女性の活躍促進が求められているが、具体的な取組は進んでいない。高校生向けの活動はあるものの、女性や若年層を対象とした人材育成の手法が確立されていない。議員活動のバランスも課題で、活動量を測ることが難しい。兼業議員の収入面でも、議員職に挑戦しづらい状況がある。報酬の見直しについても、任期中に検討が必要だが、現状では明確なルールは存在しない。

意見：議員のしくみを周知する必要がある。

応答：次年度議会のしくみ（取説）について、8ページ程度の読みやすいパンフレットを作成することを検討している。前回の諮問委員会からの答申に基づき、選挙にかかる費用や準備期間についての情報を盛り込む予定である。また、芽室町の職員の平均給料に合わせた意見もあり、30万円という数字が提案された。

意見：予算案に基づく議員定数の決定について、議員の業務の重要性を再認識した。議会だよりの読者は少なく、議員の活動が見えにくい現状がある。議員の成り手を増やすための啓蒙活動や中学生の議会体験が有効と感じた。また、議員報酬の現行額20万4000円が平成27年から変わらず、物価上昇に対する影響も考慮すべきである。

質疑：賞与の年1回の支給方法について、どのように考えているのか？

応答：報酬と一緒に見直す時期にあると考えている。また、国民年金や健康保険の負担が大きく、若者が手を挙げやすい環境づくりが求められている。

応答：議会の持続可能性には新陳代謝が必要であり、チャレンジしがいのある環境を整えることが求められる。やりがいでだけでは生活できないため、自分たちや次の世代を考慮し、安定した収入を確保するための方策を検討すべきである。目標として30万円を目指したい。

応答：白樺高校の生徒が模擬議会を体験したことを踏まえ、中学生への議会見学の機会を増やすことが望ましいと考えている。

意見：課長職と同等の給料表や類似団体との均衡を示す資料を提示して欲しい。

意見：議員の仕事に見合う報酬ではない。町民は議員の辛さを理解していないので、町民への周知に尽力していただきたい。